

第二次上田市行財政改革大綱(案)の中間報告に対するご意見記入用紙

ご意見等の提出者 (必須)	お名前	NPO 法人上田図書館倶楽部
	ご住所	上田市天神 1-8-1 上田駅前ビルパレオ 4階 上田情報ライブラリー内 (市外の方は、勤務先又は通学先の名称)
	電話番号	25-3115
大綱に関する ご意見・ご提言等 (必須)	<p>NPO 法人上田図書館倶楽部は、上田情報ライブラリーの設置目的、コンセプトの達成を図るため、8年間の経験と実績を基に上田図書館倶楽部が主体となった民間活力による上田情報ライブラリーの業務の受託を平成19年から上田市に提案してきました。</p> <p>このたび、第2次上田市行財政改革大綱原案の中間報告で、図書館が行政事務への民間参入の推進対象に挙げられていますので、ここに改めて上田市および上田市行財政改革推進委員会に対する意見として「上田図書館倶楽部が提案する図書館サービスとその運営」を提案いたします。</p> <p><b>I 上田図書館倶楽部が提案する図書館サービス</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>開館日を50日増やし335日にするるとともに、土・日の催しを充実します。</li> <li>上田情報ライブラリーのコンセプト*達成を目指し、専門性の高い図書館サービスを実現し、暮らしや仕事に役立つ図書館づくりを推進します。 *①暮らしとビジネス支援 ②千曲川地域文化の創造と発信 ③市民協働の図書館づくり</li> <li>地域文化の創造と発信を活発にし、駅前から賑わいを創出します。</li> <li>市民の自主事業や交流を活発にし市民満足度を高めます。</li> <li>中長期計画により継続的な図書館サービスを提供し、事業評価を行います。</li> </ol> <p><b>II 実現のための方法～専門的職員集団の形成～</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>予算(人件費等)を活用して専門的職員集団を形成するとともに、ワークシェアリングにより雇用の拡大を図ります。 具体的には、現行の市職員(正規4名、臨時7名)の人件費等を有効活用し、市職員2名並びに上田図書館倶楽部が主体となって公募専門スタッフ、非常勤スタッフ等約15名からなる専門的職員集団を形成します。</li> <li>日本図書館協会の認定司書申請要件は経験年数10年以上とされており、専門的職員の養成には相当年数の経験が必要です。 上田図書館倶楽部が主体になり専門スタッフを公募し、雇用期間、待遇等臨時職員の枠を超えた専門スタッフ体制を採るとともに、研修を充実させ専門性の高い人材を養成します。</li> <li>館長は上田情報ライブラリーの設置目的を達成し、スタッフ・職員を育成できる人材を招聘(公募)します。</li> </ol>	

4. 市職員が担い行政が行うべき事務と協働して推進します。

### Ⅲ 実現のための裏付け～市民協働の実績と専門機関等との連携～

1. 上田図書館倶楽部には、この8年間に及ぶ上田情報ライブラリーと事業やサービスを共催、協働して企画、運営をしてきた経験と実績があります。
2. 市民の中には様々な経験、専門的な知識、技術、人脈をお持ちの方が多くいらっしゃいます。それらの多くの市民が図書館サービスに主体的に参加する機会を作るとともに、新たな図書館サービスを創造してきました。
3. 情報提供や子どもへの図書館サービスのための研修を積み重ねて人材を育成してきました。
4. 専門機関・団体、専門家と連携、協力関係がこれまでの事業、活動を通して築かれています。また、先進的な知見を得たり、相互協力関係を作り上げてきました。
5. 行政の単年度主義を脱却して、じっくりと事業に取り組んできました。

### Ⅳ提案の背景と理由

上田情報ライブラリーのコンセプトや設置目的達成のために図書館機能を十分に発揮させるには、一般行政職員と臨時職員による現在の職員体制は制度的に限界があります。

すなわち、一般行政職員は人事異動が不可避で、専門的なサービス提供に必要な知識・技術・経験の蓄積が難しい面があり、図書館サービスの提供よりも、庁舎管理、予算管理、人事管理等の管理業務に偏りがちです。

一方臨時職員は、待遇において一般行政職員に比して大きな較差がある中で日常的な図書館サービス・業務の大半を担っているにもかかわらず、長期的な図書館サービス計画の立案等責任ある立場にはなく、身分的には不安定で、研修機会も保障されていません。

現状のままでは、貸出を中心とした従来型の図書館サービスを継続するに止まり、上田情報ライブラリーの設置目的、コンセプトの達成は困難と言えます。

### Ⅴ まとめ～業務の受託を提案します～

ここ2年あまり、国を挙げて図書や各種資料のデジタル化が進められており、国会図書館の所蔵資料もデジタル化され順次公共図書館に配信されようとしています。また地域資料のデジタル化とweb提供の動きも活発です。このような状況下では、何よりも情報化に対応できる職員が必要です。

また、ビジネス支援、医療・健康情報サービス、子育て支援等、大きな潮流になっている課題解決支援型サービスを実践するとともに、地域の人と人の繋がりが見直されている今日、図書館のもつ資料収集保管機能を生かしながら図書館にしかできない地域文化振興を推進できる人材が求められています。

上田図書館倶楽部が受託すれば、このような専門的職員集団の形成、

市民の持つ専門的な力を図書館サービスに活かすシステム構築により上田情報ライブラリーの設置目的、コンセプトの達成を図るとともに、時代が求める図書館づくりに踏み出すことができると考えます。

開館当時、上田情報ライブラリーはインターネット環境を整備しデータベースを導入した県下でも最先端の図書館でした。「上田駅前にすごい図書館ができたんだってね。」という声が聞かれました。時間が経過しても、新鮮で役に立つ図書館サービスを提供することができれば、上田情報ライブラリーは県下に輝く刺激的な図書館であり続けることができます。そのために、上田図書館倶楽部は上田情報ライブラリーの図書館サービス業務の受託を提案します。